

成長企業の 真髓に迫る

不動産業界 トップインタビュー

総合ビルメンテナンス会社のグローブシップ(東京都港区)は、ビル代行と日本ビルサービスの統合により2015年4月1日に設立。本年4月に10周年を迎えた。この10年の間にA-1に代表される新技術は大きく進歩し、ビルメンテナンス業務における活用の幅は大きく広がった。また、わが国の生産年齢人口の減少という社会課題は未だ解決の糸口が見えず、業界でも大手を中心に各社が様々な取り組みを積極的に展開している。グローブシップではこの10年間のビルメンテナンス業界を取り巻く状況をどのように分析し、今後を展望するか。矢口敏和社長に話を聞いた。



グローブシップ
代表取締役社長
矢口 敏和氏

<プロフィール>
1953年、茨城県生まれ。一橋大学卒業後、三菱銀行に入行。支店、本部、海外勤務などを18年経験し、40歳でビル代行に総務部長として入社。2000年に代表取締役社長に就任。2015年、グローブシップの代表取締役に就任。

○グローブシップ設立から現在に至る10年間で、施設管理の現場を取り巻く環境は大きく変化しました。直近でビルメンテナンス業界が抱えている課題について、どのように考えていますか。

矢口 ビルメンテナンス業界においては、何と云っても人手不足の問題が各社共通の課題であると思います。業界の市場規模は今も着実に成長し続けており、当社も10年前と比べると売上高が約120億円増加しており、「お客様」の視点で言えば、需要は堅調に推移しています。一方で人材の確保は、これまで以上に厳しさを

それぞれの現場の責任者任せにせず、会社が導いていくことが重要ではないでしょうか。

○人手不足という課題がある中、新たな人材の獲得も注力すべき分野といえそうです。

FMDXが切り拓く次の時代の施設管理 業界で先んじて対外的なブランディング戦略に注力

生の方々の採用が減少傾向にあると感じています。若い世代の方々に当社ならびにビルメンテナンス業界への関心を深めていただくべく、SNSや動画配信など、親しみと興味を持つていただけるアプローチを模索しているところなんです。

矢口 ロボットを活用した業務効率化は、業界でも今後ますますその領域を広げていくことでしょう。特に効果が現れているのが清掃分野であり、当社としても早くから人の手とロボットを組み合わせた清掃プログラムの開発に注力し、現在では全国で約300台のロボットが現場で活躍しています。加えて、人手不足問題の解消の一助となり得るのが外国人材の積極的な育成と登用です。2018年にミャンマー人の技能実習生の受け入れを開始したのを皮切りに、当社では現在、ところどころ316名が在籍。うち23名が正社員として活躍しています。業務は基本となる清掃から、より高いレベルの知識や技能が求められる設備管理まで、幅広い項目をカバーしています。

○環境の変化に際し、自社の成長の実現に向けて取り組まれていることは何でしょうか。

○自社のブランディング戦略について詳しくお聞かせ下さい。

矢口 当社は10年前の設立を機に企業のブランディングに注力する方針を打ち出しました。社外に向けては先程述べたようなブランディングの策定、また社内に向けては社員一人ひとりの仕事への取り組み方をまとめた16項目の行動規範「G S W A Y (グローブシップ・ウェイ)」を定めて、社員の意識改革を進めることでブランドイメージの実現を目指しています。このほか、当社の取り組みを、紹介する社外報「G S W a y」を年に3回発行し、現在までに23号をお届けし、お取引先様向けの講演会も年に1

度開催し、人手不足問題や業務におけるDXなど、その時々トレンドワードをピックアップしてあります。

○様々な現場での業務に対応できるよう、人材育成は非常に重要となりますね。

矢口 海外からの人材の獲得も、円安を背景として厳しさを増しています。そうした中で、日本は選ばれる国にならなくてはならないと感じています。すし、当社としても海外の方々にとって働きがいがあり、自己の成長にもつながる職り組んできたことに、場づくりで、選ばれる企業にならなくてはならないと認識しております。まず、語学研修から実務に対応した研修まで、個々のキャリア形成につながる教育プログラムを構築し、外国人材の高度化を図っていき、人材育成を促しています。先端的な技術の活用や外国人材の育成をはじめ、今後とも慢性的な社会課題となるであろう人手不足の問題に様々なアプローチから対抗していくことが求められています。また、総合ビルメンテナンス会社として業務の幅を広げていくことも重要で、従来のオフィスビルロボットが現場で活躍しています。加えて、人手不足問題の解消の一助となり得るのが外国人材の積極的な育成と登用です。2018年にミャンマー人の技能実習生の受け入れを開始したのを皮切りに、当社では現在、ところどころ316名が在籍。うち23名が正社員として活躍しています。業務は基本となる清掃から、より高いレベルの知識や技能が求められる設備管理まで、幅広い項目をカバーしています。

【取材こぼれ話】
「休日はゴルフやスポーツクラブで汗を流すことが多い」と話す矢口社長は、学生時代はフナダーフオーゲル部に所属していたという生粋のスポーツマン。スキー歴も長く、毎年冬の時期には北海道へスキーを楽しみに訪れるという。社会人になってからは登山に赴く機会からは遠ざかっていたが、OBの仲間たちからのお誘いで久しぶりの登山に挑むことになった。またドライブも趣味で、海外の見知らぬ土地を自身の運転で訪れるのが好きだ。過去にバック旅行に参加したものの、旅程も予約も全てお任せの旅行はアクティブな矢口社長には物足りなかつたらしく、「今年は自身でプランニングしたスペイン・ポルトガルへの家族旅行を計画しています」と笑顔で語った。